

精神疾患と向き合う人々の自立と共生を考える 海外13カ国の障害者教育者ら24名が北海道「べてるの家」でスタディーツアー

国際交流基金(ジャパンファウンデーション)は2/26(土)より「福祉:社会的弱者の自立と共生」をテーマに、海外13カ国から若手NGO職員、教育者、行政官等24名を招へいしスタディーツアーを実施します。

このスタディーツアーは、「21世紀東アジア青少年大交流計画」(JENESYS Programme)東アジア次世代リーダープログラムの一環で、北海道浦河町と浦河べてるの家(精神障害者の当事者研究で知名度ある団体)等の協力のもと、主に精神疾患と向き合う人々が社会から隔離されることなく自立して生活する事例を視察し、そのアプローチについて学びます。更に持続可能な社会のあり方に焦点をおき、東アジア地域の共通課題として議論を深めながら、対日関係者及び参加者間の良好な関係の構築を目指します。



参加国/人数 インドネシア/2名、マレーシア/2名、ミャンマー/2名、フィリピン/2名、ラオス/2名、シンガポール/3名、タイ/2名、ベトナム/2名、インド/2名、オーストラリア/2名、ニュージーランド/1名、中国/1名、韓国/1名、日本/2名

視察・訪問内容 浦河町/浦河教育委員会/浦河べてるの家/浦河赤十字病院/浦河アイヌ文化保存会/浦河わらしべ園/わらしべ乗馬療育研修センター/馬の背うらかわ乗馬支援会/浦河町乗馬公園/浦河向陽園/養護老人ホームちのみの郷

招へい期間 2011年2月26日(土)～3月9日(水)12日間

ワークショップ(講師 永田佳之)
「持続可能な福祉の取り組み:浦河の事例」
日時 2011年3月4日(金)
13:00～17:00(英語 通訳無し)
会場 浦河総合文化会館(北海道浦河町)

グループ別成果発表(講師 永田佳之)
「持続可能な福祉社会:日本の事例から学んだこと」
日時 2011年3月8日(火)
14:30～18:00(英語 通訳無し)
会場 芝パークホテル「牡丹」(東京都)

上記イベントは原則、非公開ですが取材は歓迎致します。事前に担当者までご連絡をお願いします。

プログラムアドバイザー 永田佳之(ながたよしゆき)(聖心女子大学准教授)

教育学博士。1995年国立教育政策研究所の職員としてユネスコ等との国際事業にたずさわる。2005年、同時多発テロ事件後の国際理解教育のあり方を論じた論文にて、第29回「国際理解教育賞最優秀賞」を授賞。著書は『持続可能な教育と文化:深化する環太平洋のESD』(せせらぎ出版)など多数。2007年より現職。



お問い合わせ: 国際交流基金 文化事業部 生活文化チーム 担当: 志和(しわ)、養父(ようふ)
電話 03・5369・6060/FAX:03・5369・6036 e-mail: Hisae_Shiwa@jpf.go.jp, Minako_Yofu@jpf.go.jp